

TDAPIII 不具合の確認方法および修正版 TDAPIII の利用について

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

本資料では、「TDAPIII における材料非線形モデルの不具合について」にてご連絡しました不具合（項番 1～項番 4）について、不具合該当有無の確認方法および修正版 TDAPIII の利用方法をご案内いたします。

項番 2～項番 4 については、不具合のお知らせに記載した発生条件をご確認ください。一方、項番 1 については、入力データや解析結果などから不具合該当有無を判定することが困難なため、項番 1 の不具合に該当するかどうかを判定するための TDAPIII（以下、項番 1 不具合判定用 TDAPIII）を提供いたします。

また、項番 1 および項番 2 は重要構造物の解析で利用される機能に関する不具合であることを踏まえ、本件対応として、旧バージョン向け修正版 TDAPIII を併せて提供いたします。修正版 TDAPIII では、項番 1～項番 4 の不具合を修正しております。

1. 提供プログラム

本資料では、TDAPIII v3.16 より前のバージョンを「旧バージョン」と表記します。

本件対応として、対象バージョンに応じて以下のプログラムを提供いたします。

表 1 対象バージョンと提供プログラム

対象バージョン	提供プログラム
TDAPIII v3.16	項番 1 不具合判定用 TDAPIII および TDAPIII v3.16.03（最新バージョン、インストールイメージ）
旧バージョン (v3.04～v3.15 の最終レベル)	項番 1 不具合判定用 TDAPIII および修正版 TDAPIII

※ 旧バージョン向けプログラムの提供には、「TDAPIII 旧バージョンソフトウェア使用同意書」の提出が必要です。

※ 各プログラムは準備が整い次第、2026 年 6 月 25 日ごろから順次提供する予定です。

2. プログラムの準備

2.1. 使用バージョンの確認

対象解析で使用した TDAPIII のバージョンをご確認ください。

2.2. プログラムの入手

1) TDAPIII v3.16

TDAPIII v3.16.03 (インストールイメージ) および TDAPIII v3.16 の項番 1 不具合判定用 TDAPIII の準備が整いましたら、別途ご案内いたします。

2) 旧バージョン

添付の「TDAPIII 旧バージョンソフトウェア使用同意書」に必要事項をご記入の上、購入元までご提出ください。同意書の内容を確認後、ご希望のバージョンに対応したプログラム一式の準備が整い次第、「TDAP3v3XXXXJ_RLM.zip」を送付いたします。

※ XXXX にはバージョン番号が入ります。

2.3. ファイルの配置

1) TDAPIII v3.16

TDAPIII v3.16.03 (インストールイメージ) を用いて TDAPIII をインストールしてください。TDAPIII v3.16 の項番 1 不具合判定用 TDAPIII については、TDAPIII v3.16.02 のインストールフォルダへコピーしてください。

2) 旧バージョン

プログラム一式を解凍すると、以下のフォルダが生成されます。

TDAP3v3XXXXJ

当該フォルダ内の全ファイルを、同バージョンの TDAPIII インストールフォルダへ上書きコピーしてください。なお、提供プログラム一式に含まれるファイルは、すべてそのまま配置してください。

※対象バージョンの TDAPIII が既にインストールされていることを前提としております。インストールされていない場合は、事前にインストールをお願いいたします。

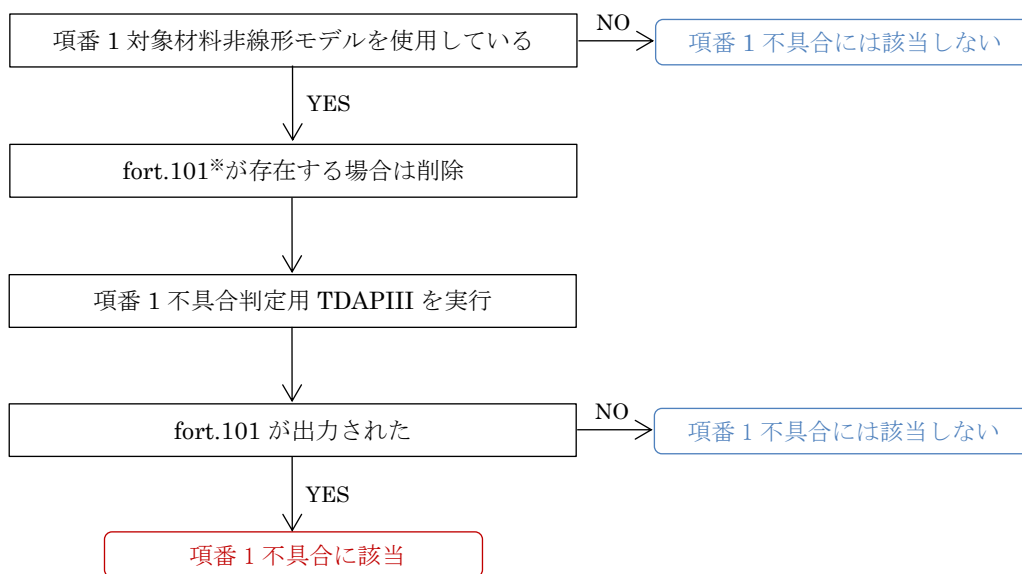
3. 不具合該当有無の確認

3.1. 項番 1

3.1.1. 確認手順

まず、「TDAPIII における材料非線形モデルの不具合について」の項番 1 に記載した対象材料非線形モデル（同資料の表 1 参照）の使用有無をご確認ください。

対象材料非線形モデルを使用していない場合は、項番 1 不具合には該当しません。対象材料非線形モデルを使用している場合は、以下のフローに従って確認してください。



※ fort.101 は、項番 1 不具合の発生条件に該当する要素が存在する場合に出力される要素情報ファイルです。

図 1 項番 1 不具合該当有無の確認フロー

3.1.2. 解析実行

解析を実行する前に、解析実行フォルダ内に「fort.101」が存在しないことを確認してください。

「fort.101」が存在する場合は削除してください。

その後、当時実行した実行モジュールと同メモリサイズ区分の項番 1 不具合判定用 TDAPIII（末尾に「_DUMP」のついた実行モジュール）を用いて、解析を再実行してください。

解析実行時には、メモリサイズ区分に応じて、以下の実行モジュールを指定してください。

TDAP3S.EXE	→	TDAP3S_DUMP.EXE
TDAP3.EXE	→	TDAP3_DUMP.EXE
TDAP3L.EXE	→	TDAP3L_DUMP.EXE
TDAP1024.EXE	→	TDAP1024_DUMP.EXE
TDAP1750.EXE	→	TDAP1750_DUMP.EXE
TDAP4096.EXE	→	TDAP4096_DUMP.EXE
TDAP8192.EXE	→	TDAP8192_DUMP.EXE
TDAP16384.EXE	→	TDAP16384_DUMP.EXE

なお、当時の解析実行環境（CPU、OS 等）と異なる環境で解析を実行した場合、解析結果を完全に再現できない場合があります。

3.1.3. 判定結果の確認

不具合の発生条件に該当する要素が存在する場合、その要素情報が「fort.101」というファイル名で解析実行フォルダに出力されます。「fort.101」が出力された場合は、項番 1 不具合に該当します。一方、解析が正常終了し、かつ「fort.101」が出力されていない場合は、項番 1 不具合には該当しません。

なお、「fort.101」は解析実行フォルダに出力されます。同一フォルダ内で複数の解析を実行した場合、後から実行した解析の結果で上書きされますのでご注意ください。

要素情報ファイル「fort.101」の出力例を図 2 に示します。

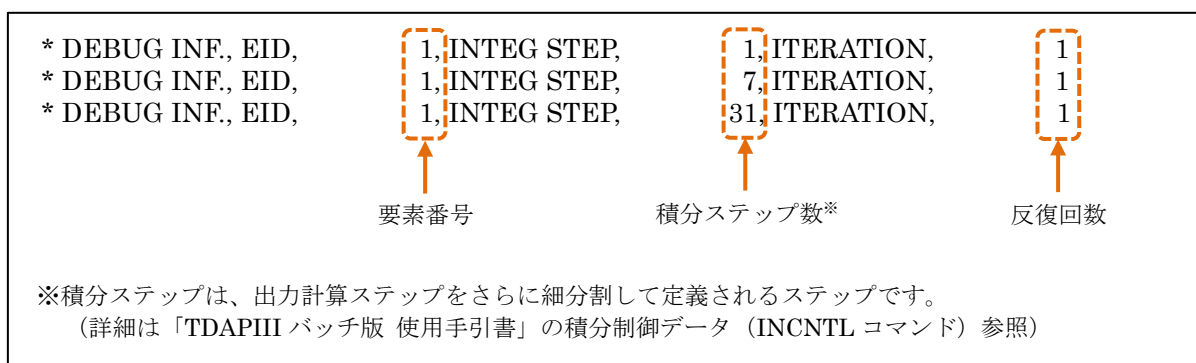


図 2 項番 1 不具合に該当する要素情報ファイル「fort.101」の内容

3.2. 項番 2～項番 4

項番 2～項番 4 については、不具合のお知らせに記載した発生条件をご確認ください。発生条件に該当する場合は、当該不具合に該当します。

4. 修正版 TDAPIII の利用

項番 1～項番 4 の不具合に該当して再解析する場合は、修正版 TDAPIII をご利用いただけます。
なお、可能な場合は、最新版である TDAPIII v3.16.03 をご利用いただくことを推奨いたします。
ただし、過去解析との整合性確認や設計・評価上の理由により旧バージョンでの解析が必要な場合は、旧バージョン向け修正版 TDAPIII をご利用ください。

なお、旧バージョン向け修正版 TDAPIII は、項番 1～項番 4 の不具合のみを修正したものです。旧バージョンのリリース以降に発見された項番 1～項番 4 以外の不具合については修正しておりません。

4.1. TDAPIII v3.16

インストールした TDAPIII v3.16.03 をご利用ください。

4.2. 旧バージョン

解析実行時には、メモリサイズ区分に応じて、末尾に「A」のついた以下の実行モジュールを指定してください。

TDAP3S.EXE	→	TDAP3SA.EXE
TDAP3.EXE	→	TDAP3A.EXE
TDAP3L.EXE	→	TDAP3LA.EXE
TDAP1024.EXE	→	TDAP1024A.EXE
TDAP1750.EXE	→	TDAP1750A.EXE
TDAP4096.EXE	→	TDAP4096A.EXE
TDAP8192.EXE	→	TDAP8192A.EXE
TDAP16384.EXE	→	TDAP16384A.EXE

なお、修正版 TDAPIII では、リストファイルの先頭に表示されるレベルに「AA」が付与されます。

5. お問い合わせ先

ご不明な点がございましたら、下記までお問い合わせください。
お問い合わせの際は、ユーザー番号（TP 番号）をお知らせください。

株式会社アーク情報システム
TDAPIII 担当
TEL : 03-3234-9238
E-Mail : tdap@ark-info-sys.co.jp